

しおさい



野花菖蒲とアズマギクの咲く尻屋崎

CONTENTS

- 特集記事 シリーズ⑩ ふるさと見聞録：小田野沢を訪ねて……………2
- 明日へのかけはし：尻屋漁業協同組合女性部……………4
- ファイト!わんぱく：東通小学校陸上部……………4
- クローズアップ こんにちは元気さん：大津 真吉さん……………5
- 地元の特派員レポート：北田 夢葉さん／三國 礼さん／沢田 要一さん…6
- 達人がつくる簡単料理!：東通牛すじ丼……………6
- 東通産 海藻みそ貝焼……………7
- 発電所インフォメーション……………8

vol.13

平成26年度発行

東北電力(株)東通原子力発電所

活発な地域活動で住民が結集!

小田野沢を訪ねて

村一番の広大な土地で、強い絆を育む集落!

太平洋に面した東通村の南に位置する小田野沢は、村内で最も面積が広く、白糠に次いで人口の多い集落です。通称「こださ」と呼ばれ、約350世帯、約1,000人が暮らしています。

歴史を紐解くと、今から300年以上前、海沿いにあった集落と神社が、大津波により現在地へ移住したのが始まり。最初に住み着いたのは、柳が2本あった場所に住む「二本柳」、畑の中の「畑中」、川の南にあった「南川」をはじめ、「北川」、「川村」、「川口」、「川端」、「竹山」、「坂本」の9軒だと伝えられています。集落の名前は、アイヌ語で湿地帯を意味する「オタノシケ」に由来するそうです。

現在の小田野沢の基幹産業は、兼業も含めた漁業。サケの定置網、タコ、アブラメ、ソイなどのカゴ漁が行われています。その昔、イフシの大群が海の色が変わるくらい押し寄せたり、アワビやウニは1日で150kgも獲れたこともありました。

昭和34年、防衛庁下北試験場が設置されたことで道路は拡張され、地元出身の二本柳栄太郎村長の尽力でバス



近代的な小田野沢漁協

路線が開通。昭和40年代には原子力発電所の建設が決まり、関連企業などで働くことで住民の生活水準が向上しました。

小田野沢は、小中学生合わせて60人と、村内で一番子どもが多い地域。村のリーダーもたくさん輩出しています。お祭りは子どもたちが地域の一員として、初めて認められるきっかけを作ります。芸能発表会は、誰もが出演を楽しみにしており、参加することで成長し、礼儀も自然に身に付きます。育成会では、子どもたちがどこに行っても地域を誇れる活動を、アクティブに進めて行きたいと考えています。



子ども会育成会 前会長
かわむら みつひろ
川村 光宏さん(41歳)



深山神社を合祀した鍵懸神社



神社内部

小田野沢では、地域の伝統や風習を守るため、活発な活動が行われています。

婦人会は「田植え餅つき踊り」を伝承。衣装と振りの素晴らしさから観光バスツアーにも加えられています。

青年会は地元で生えたスゲを刈り取り、毎年鍵懸神社の宵宮に見事な「大年縄」を奉納。



毎年鍵懸神社に奉納される大年縄

神楽会や子ども会は伝統芸能を継承。毎年2月に行われる村の発表会で披露されています。



子ども会の発表会

老婆会是小田野沢墓地待休所(通称:寺っこ)にある石地蔵を守るなどの活動をしています。



老婆会が守っている石地蔵

神楽会の会員は20代、30代、50代、70代で構成され「生涯現役」です。打ち習いは厳しいですが、踊りのほかに、三味線、尺八、笛、手平鉦、太鼓、謡といった拍子方の後継者も育てています。地域の結束力を高めるために、伝統芸能はなくてはならないもの。子ども会が終わったら神楽会に入り、若い人が積極的に伝統を受け継いで欲しいと思います。



神楽会 会長
かわむら てつや
川村 哲也さん(56歳)



漁港から小田野沢集落を望む

心をひとつに結ぶ鍵懸神社例大祭

深山神社を合祀した^{かんじょう}鍵懸神社が^{しやうほう}勧請されたのは、今から約370年前の正保年間。鍵懸神社は火の神である「^{とよたまひこのみこと}豊玉彦命」、深山神社は水の神である「^{すくなひこのみこと}少彦名命」が祀られています。現在の社殿は、平成14年、旧国道沿いの畑浦から、旧小田野沢小中学校のあった南通に新築移転したもので、境内にはほかにもたくさんほこらの小さな「祠」が納められています。



昭和20年8月戦火で焼失した鍵懸・深山神社



小田野沢大大神楽「二人平獅子」

神社は地域の氏神様です。地域の人たちみんなを守ってもらうため、お祭り、お正月のほか、老婆会が毎月17日にお参りしています。神社や境内の維持管理としては、桜やイチヨウの木の手入れや、雪片付けも行います。地域のみんなに愛される神社であるよう、これからも氏子の仕事をしっかり続けていきたいと思っています。



氏子総代
にほんやなぎ ゆうさく
二本柳 雄作さん(68歳)

で「^{だいだいかぐら}大大神楽」の名を拝命。会の結束を目指し、昨年は神楽どころでありながら、歌舞伎^{あこぎがうら}「阿漕浦」を20年振りに復活させました。



20年ぶりに復活した歌舞伎演目「阿漕浦」

毎年9月16日に行われる地区をあげての例大祭は、地域住民が心をひとつに盛り上がります。青年団が主催する山車の合同運行では、神楽会による神楽御堂、青年団、交通安全母の会による山車、子ども会によるねぶた3台、計6台の山車が地区内をゆつくりと練り歩きます。

小田野沢部落会 会長
にほんやなぎ まさお
二本柳 政雄さん(80歳)

小田野沢は、昔から結束力が強い地域。毎年、新しい年の活動の方向性が決まると、春の清掃、鍵懸神社のお祭りなど、住民みんなが賛同し、協力し、参加してくれます。

地元に学校がなくなったのは淋しいことですが、子ども会の活動を絶やさず、郷土芸能を伝承し、これからも祭りが受け継がれるよう頑張っていきたいと思っています。

そして、早く発電所が再開し、活気のある地域に戻ることを願っています。



明日への かけはし

しつかり

尻労漁業協同組合
女性部

「しめ鯖」を試作し
獲れた魚に付加価値を!

地元で獲れた新鮮な魚に付加価値を付けようと部員が創意工夫を重ね、加工品の製造・販売を行っている尻労漁協女性部。(会長:畑中志津子さん)

部員は30代から70代までの16人。世代を超え、漁師の奥さんたちが和気あいあいと活動を行っています。

女性部が結成されたのは平成2年。尻労漁協では定置網でマスやサバ、底たて網でヒラメなどが豊富に獲れることから、加工品を作って付加価値をつけようと、漁協の後押しで結

成されました。

最初に取り組んだのは「鮭の飯寿司」。現在は、新鮮な「みずだこ」や「^{こうなご}小女子」を美味しく茹でて真空パックにし、野牛川レストハウスの産直で販売して喜ばれています。

今、商品化に向け取り組んでいる「しめ鯖」は、これまで漁師さんの家庭で塩と酢だけで作っていたものを、青森県産業技術センター下北ブランド研究所の協力を得て現代風にアレンジ。

試作品を産直で販売したところ「味

が良い」と評判でした。現在、パッケージの制作を行っています。

畑中会長は「ひとつの商品をつくるには、味はもちろん、形もきれいに整えなければなりません。漁師の妻として忙しい日々を過ごす中、みんなが同じ時間に集まることは容易ではありませんが、勉強会を積み重ね、どこにも負けない美味しいしめ鯖を作りたいと思っています」と意欲的。

今後については「様々な加工品を開発するのはもちろんですが、将来の漁業を担う子どもたちに魚のさばき方を教えるなど、いろいろなことに挑戦したいですね」と話していました。



元気いっぱいの尻労漁協 女性部の皆さん(右から2番目が畑中会長)



「しめ鯖」の試作品作りに精を出す部員たち



真空パックも自分たちで行います



「ゆでたこ」「小女子」「しめ鯖」の加工品



東通小学校 陸 上 部

平成23、24年度の県大会で4年100メートル男子優勝、5年100メートル男子優勝、6年100メートル女子優勝などの実績を残し、全国大会に出場するほどの活躍を見せている東通小学校陸上部。現在部員は4、5、6年生合わせて26人。

黒にオレンジ色のユニフォームが映える、陸上部の練習方法はとてもユニーク。自らも陸上競技の選手だった岡村真吾先生指導のもと、冬は歩くスキーに挑戦

したり、夏はサッカーをはじめ、野球に似たティーボール、ドッジボールなどを積極的に取り入れ、瞬発力などを養っています。

陸上以外の運動もすべてトレーニングと位置づけ、一人ひとりが楽しみながらスポーツに向かうことで、子どもたちは着実に力をつけています。

走り幅跳びの選手で、みんなをまとめる6年生の濱田綾莉朱



モモをあげて基礎練習に励む子どもたち



アップ こんにちは 元気さん

村内で元気に活動する人を紹介!

元気
さん

東通村子ども会
育成会連合会会長

おお つ

しん きち

大津 眞吉さん(70歳)

郷土芸能の伝承などを通じて子どもたちを健全に育む、子ども会育成会。今回は連合会長の大津さんにインタビューしました。

たくさんの郷土芸能を、昔のままの姿で受け継いでいる東通村。村内各地区にある9つの「単位子ども会」では、子どもたちが地域の方々に教わりながら懸命に練習を重ねています。その集大成とも言える「東通村子ども会郷土芸能発表会」を主催し、子どもたちの健全育成に尽力しているのが、東通村子ども会育成会連合会です。

大津さんが「単位子ども会」の育成会に携わるようになったのは、今から37年程前のこと。「長男が小学校4年生の時に、PTAの副会長をさせてもらったことから、地元・岩屋子ども会育成会の運営に関わるようになりました」



東通村子ども会郷土芸能発表会の様子

と話します。岩屋地区の育成会会長を4年間つとめ、連合会の副会長を20年、4年前から会長として奔走しています。

「寒い季節に開催しているにも関わらず、今年の発表会も孫の晴れ姿を見ようと、おじいちゃん、おばあちゃんはじめ、地域の方々約600人が見に来てくれました。子どもたちは応援してくれる地域の人がいるからこそ頑張れるのだと思います。郷土芸能は大切に受け継がなければならない村の宝物。各地区で、みなさんがしっかり指導してくれるからこそ発表会を開くことができるのです」と説明。

大津さんが育成会活動で最も心に残っているのは、昨年で29回目となった下北地区子ども会郷土芸能発表会に1回目から携われたこと。「あの頃は場所代がかかっていたので協賛金を集めるのに苦労しました。でも、地区を越えた『下北』という大舞台での開催は、子どもたちの大きな力になったと信じています」と思い出を語ります。

芸能伝承活動のほかにも、夏はキャ



下北地区子ども会郷土芸能発表会の様子

ンプ、冬は親子スキーなど、連合会としての活動も展開。「少子化により活動を維持するのは大変ですが、子ども会は、地域の子どもの最初に出逢う縦割り社会。子どもたちの成長に必要なものだと思います。自分自身、活動を通じて様々な方に盛り立ててもらい、社会勉強をさせていただきました。今後は、地域へ恩返するためにも活動を続けたいと思います。そして学校、PTAなどと連携し、大きくなって村を出て行く子どもたちも、地元の素晴らしい郷土芸能を忘れないよう育てて行きたいと思います」と話していました。

さんは「みんなすごく仲がいいです。大会が近づくと練習が増えて大変ですが、きつい時でもみんなで力を合わせて頑張って、今年も県大会入賞を目指します!」と意欲的。

岡村先生は「陸上がとても好きな子どもたち。特に6



陸上部のみなさん

年生はリーダーシップがあり、みんなをどんどん引っ張って行くので、まとまりのあるチームになっています。陸上競技は、辛さも魅力のひとつ。子どもたちが共に苦しみ、それを乗り越えて共に喜び、結果を出して『東通』の名前をもっともっとアピールして欲しいと思います」と話していました。



楽しみながら練習を行う部員と優しく見守る先生

今年度の目標を話す
はまだ ありす
濱田 綾莉朱さん
(6年)





東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

●写真は特派員が自ら撮影したものです。



私の ふるさと!!

東通村古野牛川在住
東通小学校(6年)
きただ ゆめは
北田 夢葉さん
(11歳)

私の住んでいる古野牛川は、津軽海峡に面していて、地区の半数以上が海にかかわる仕事をしています。

冬から春にかけて、タコ、本マス、ババガレイ、夏は、地まきホタテ、夏から冬にかけてはイカの漁が盛んになります。近くに野牛漁港があり、ここで水揚げされるホタテは地まきなので、津軽海峡の荒波にもまれ、貝も身も



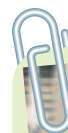
親子3代で、イカ釣りへ向かう



サクラマス釣りから寄港する我が家の船



大きく、そして、身はしまって、とても美味しいです。全国的に有名で、ホタテの時期には、遠くに送ったり、遠くから泊まりがけで買いに来る人もいます。イカの漁に入ると、大小さまざななくさんの船が海に出て行きイカを捕ってきます。日中、港ではお母さんたちが発砲スチロールに氷をつめておきます。私も手伝うときがあります。船がもどってくる時間になると、荷揚げを手伝う家族で港はにぎわいます。そんな活気あふれるここが大好きです。



変わらぬ ふるさとの 景色

東通村岩屋在住
みくに ひろ
三國 礼さん
(25歳)

私の生まれ育った岩屋地区では、神社と墓地が高台にあります。

この神社は若宮八幡宮で、春祭りや秋祭りには地元の青年会の方々が熊野権現様とともに祈禱に登ります。かつては神社と同じ高さの場所に集落もありましたが、江戸時代末期の度重なる大火を機に海岸沿いへと移住してきたそうです。

私たちが小さい頃、子ども会の夏のキャンプでは神社が肝試しの会場でした。子どもたちは大きな帆立の貝殻を渡され、それを神社の境内に奉納して



若宮八幡宮

達人がつくる簡単料理!

東通牛すじ丼

〈材 料〉

東通牛すじ肉、角こんにゃく、たまねぎ、しょうが、長ねぎ、卵の黄身、三つ葉、だし汁、酒、砂糖、しょうゆ、旨味調味料、ごはん

〈作り方〉

- ①角こんにゃくを5cm幅に切り、下ゆでします。
- ②鍋に牛すじ、スライスしたしょうが、下ゆでしたこんにゃくを入れます。
- ③だし汁を加えて火にかけ、グツグツしたら、酒、砂糖、しょうゆ、旨味調味料少々を入れます。(このときの分量は、だし汁4に対して酒1、砂糖1、しょうゆ1の割合)ふたをして弱火で約20分間煮込みます。
- ④煮込んだら、千切りにしたたまねぎを加え、ふたをし、たまねぎにつゆが染み込んだら火を止めます。
- ⑤長ねぎの白い部分を5cmの長さに切り、千切りにして白髪ねぎを作ります。
- ⑥ごはんの上に④を乗せ、さらに白髪ねぎ、卵の黄身、三つ葉を飾ります。



達人のワザ

- こんにゃくは、下ゆですると臭みが取れて美味しくなります。
- 牛すじの煮込みは、丼用なので少し味を濃い目に。黄身が入るので甘さを抑えるといいですよ。

ゴールになります。境内まで続く階段の途中におとなの人たちが隠れていましたが、今にして思えば、隠れているおとなの人たちにとっても肝

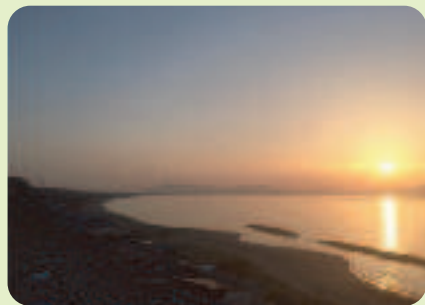


境内に向かう階段

試しだったのかもしれない。

また、高校生のときには、毎年大晦日の夜に幼馴染たちと初詣でをしていました。

七五三なども含め幼い頃から親しんできた若宮八幡宮ですが、境内へ向かう177段の階段を登り切って集落を見晴らすと、この高台の神社からいつも見守られているような気持ちになります。



若宮八幡宮から見る夕焼け



残したいもの

東通村砂子又在住
ざわだ よういち
沢田 要一さん
(64歳)

砂子又は40数戸の小さな集落ですが、歴史は古く、昔を偲ぶせる景観もあります。住民は、温厚で昔から互いに協力し合い、助け合いながら生活を営んできました。四方を山に囲まれ、春夏秋冬、それぞれ違った季節感を味わうことができ、春には山菜、秋にはキノコの収穫も期待され、休日ともなれば集落の人のもとより、他の地域から野山の散策に来る人も多く見られます。東通村の顔でもある伝統芸能「能舞(郷友会)、餅つき踊り(婦人会)、苗取り(子ども会)」も継承され、正月には集落の各家庭を回り、住民の目を楽しませてくれます。

集落の小高い丘には、圓流寺と砂子又八幡宮が建立されており、それらの



圓流寺



圓流寺の額



集落を流れる田名部川源流

館には力強く、慈愛に満ちた額が掲げられています。これは江戸駒込、吉祥寺の「愚禅和尚」の揮毫と言われ、明治中期に掲額されたものと思われる。圓流



砂子又八幡宮



八幡宮の額

寺は、今から約380年前(寛文10年)、円通寺七世「大英門突和尚」が初代住職といわれ、その前は庵寺として集落に建立されましたが、はっきりした年代はわかりません。

みなも
大川の源流に生きる

砂子又

古人の夢を伝えて

「土が枯れば、人類が破滅する」が如く、昔から継承されてきた自然・文化・神社仏閣を後生に残していくことが、我々の使命であると常日頃感ずる今日であります。

東通産 海藻みそ貝焼 かやき

〈材 料〉

岩海苔、まつも、布海苔、帆立(東通産)、豆腐、ふき、わらび、長ねぎ、卵、赤みそ、だし汁

〈作り方〉

- ①器になる大き目の帆立貝に、だし汁と具材を入れます。
- ②赤みそを入れて火にかけます。
- ③帆立に火が通ったら生卵を入れてかき混ぜ、卵が煮えたら出来上がり。



達人ワザ

- 豆腐は焦げやすいので、豆腐の下にだし汁が入るようにこまめにかき混ぜてください。
- 海藻の代わりにイカを入れたり、隠し味でイカの塩辛を入れても美味しいですよ。

今回の達人



お食事処 なか川

なかかわ たいすけ

2代目 中川 泰輔さん(36歳)

●プロフィール

むつ市出身。高校を卒業と同時に埼玉県で中華料理を修行。13年前、父が営む「元祖 みそ貝焼 なか川」を継ぐ。モットーは、真面目に手を抜かないこと。「下北伝統の味を、しっかりと守って行きたい」と話している。

次世代層支援に積極的に取り組んでまいります！

東通原子力発電所では、地域の未来を担う子どもたちが、個性や才能をのびのびと発揮できる環境づくりを応援するため、さまざまな取り組みを展開しております。

平成25年度の取り組み内容

出前放射線教室



身のまわりの放射線に関する講話や、霧箱で見る放射線の実験などを通じて、放射線への理解を深めました。生徒からは、放射線が医療や農業、工業などの分野で利用されていることなど、様々な知識が得られたと感想がありました。

環境・エネルギー教室



地球温暖化問題に関する講話や、発電の仕組みの実験などを通じて、電気やエネルギー、地球環境などに対する理解を深めました。自転車による発電実験では、自らの力で発電する大変さを実感していました。

東通バスケットボール教室



プロバスケットボールチーム「青森ワッツ」のヘッドコーチおよび選手を招き、基礎練習を中心とした指導を受け、技術の向上を図りました。部員からは、プロのボールの扱いが凄い、基礎練習の大切さが分かったと感想がありました。

エネルギー関連図書、DVDの寄贈



東通小・中学校の、環境・エネルギー教育などで活用していただく教材として、図書やDVDを寄贈しました。学校からは、これまで寄贈していただいた図書などにより、科学に興味を持つ児童・生徒が増えたと伺っております。

発行

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。



この冊子は、環境にやさしい「植物性大豆油インキ」「植林木」を使用しています。

編集後記

広報誌『しおさい』の内容はいかがでしたでしょうか。

「達人がつくる簡単料理」で、むつの郷土料理「みそ貝焼」が看板である、食事処 なか川さんをご紹介しました。私事ですが、15年程前にむつ営業所に勤務していたころお店を利用したことがあり、「みそ貝焼」が、とても美味しかったと記憶しております。

今回、紹介された東通産海藻みそ貝焼料理は、日ごろ料理をしない私でも作れるのではないかと感じ、機会を見つけてチャレンジしてみようと思いました。是非、ご自宅で試してみたいかがでしょうか。

今後とも、広報誌『しおさい』をご愛読くださいますようよろしくお願いいたします。